

第8回太平洋・島サミット（PALM8）に向けた有識者会合の提言書

（概要）

- PALM8開催の意義は、第1回太平洋・島サミット開催以降、過去20年間の対太平洋島嶼国外交の成果を総括し、新たな20年の長期的な視野に立った将来像を双方国民に示し、友好協力関係を更に強固にすること。
- 外務大臣の太平洋島嶼国訪問は1987年以来行われておらず、中間閣僚会合の島嶼国開催により、外務大臣の島嶼国訪問の機会が生まれることには意義がある。外交、貿易、投資、観光等で引き続き関係強化が重要。
- 今後の太平洋・島サミットは、国際情勢や地域情勢の変化に即し、構造改変を視野に入れて実施する必要があるが、太平洋・島サミットプロセスの拡大・拡充と島嶼国との緊密性の強化という二つの方向性を矛盾なく整合させることが重要。日本が目指すゴールに連動させるために政府方針を明確にする必要がある。
- 「自由で開かれたインド太平洋戦略」における島嶼国の位置づけを明示することが重要。「海洋安保・海上保安」「自立的かつ持続可能な発展の基盤強化」「人的交流・往来の活性化」に重点を置くべき。支援のあり方については、持続可能な開発目標との連携、他の支援国との協調、支援全体像の分かりやすい提示等に留意すべき。
- 過去の首脳宣言等関係文書を精査する、各国要望事項を聴取する、首脳宣言は簡潔で行動指向的な政治文書とする等の留意事項を提示。